

Operation Raleigh News

Operation
Raleigh

DENSO

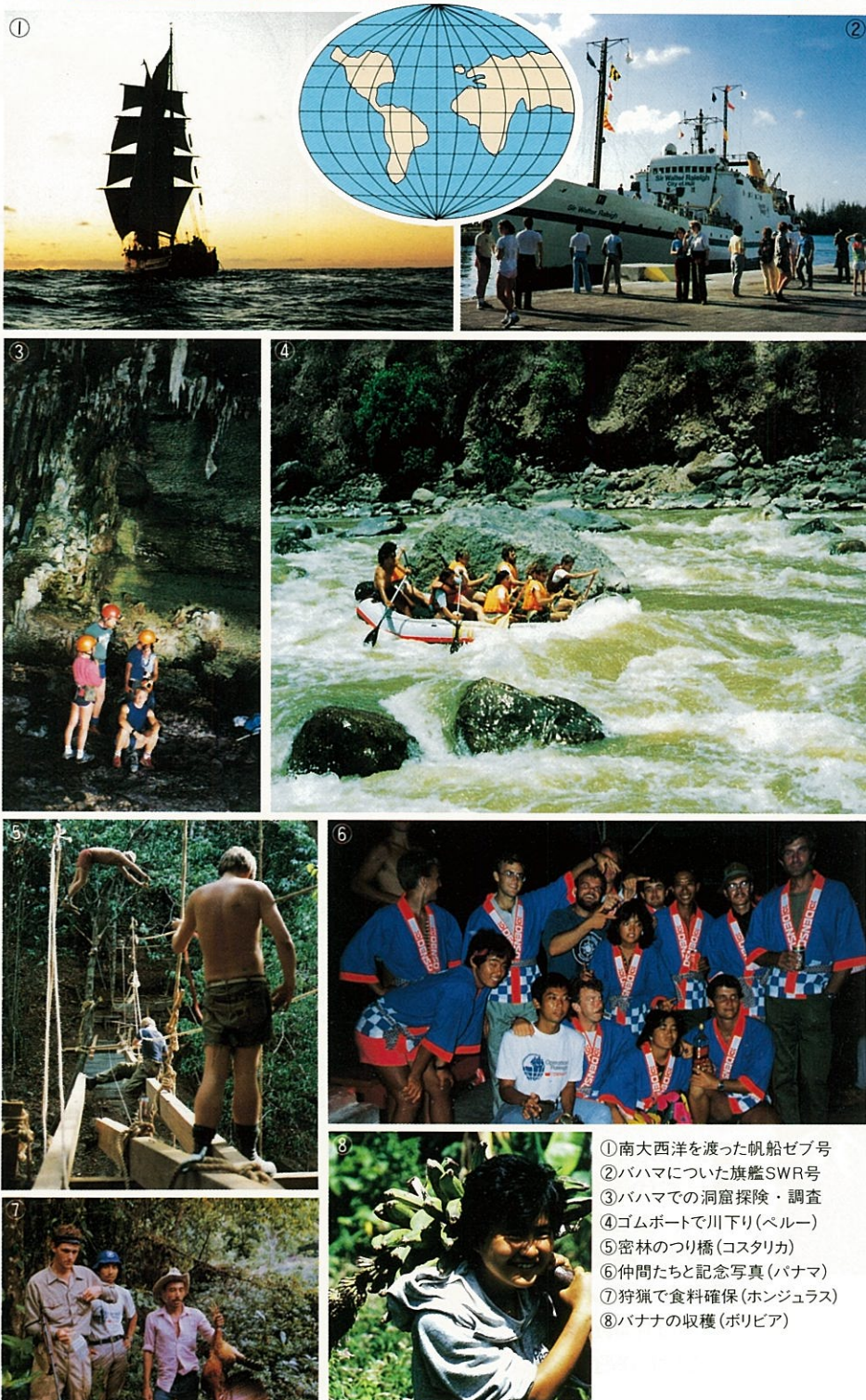
NO. 16

昭和61年(1986)1月5日(日)
毎月1回発行●発行所 オペレーション・ローリー日本委員会
〒104 東京都中央区築地1-7-10 築地オーミビル502号
電話 東京(03)544-7413

●このオペレーション・ローリーニュースは日本電装株のご協力で作られたものです。

3年目の
OR活動に際してORJCオペレーション・ローリー
日本委員会委員長 永井道雄
(国連大学学長特別顧問)「科学・奉仕・
冒険」をテーマと
した4年間の世界
一周プロジェクト
オペレーション・ローリーは早くも3年目に入り、1986
年1月現在、南米チリが主要な舞台
となっています。ORJCオペレー
ション・ローリー日本委員会が派遣
した1984年次代表青年30名もすでに
25名がこれまでのフェイズでの貴重
な体験を胸に、無事帰国し、大学あ
るいは社会で活躍しています。3年目を迎えたオペレーション・
ローリーは、本年はオセアニアを舞
台に活動が繰り広げられます。引き
続き、1987年には東南アジアでのプ
ロジェクトが予定され、その一部に
はジャパン・フェイズが組み込まれ
ています。今年はそのジャパン・フ
ェイズの前年にあたり、日本への受
け入れ準備もまたORJCの重要な
仕事になります。オペレーション・ローリーは世界
各国の青年たちが困難な条件下で共
同の作業に従事するものです。こう
した状況での、さまざまな体験は参
加青年たちに新しい視点を与えてく
れるにちがいありません。ORJCの活動はこれからこそが、
真価を問われるときです。みなさま、
どうかこの国際的な活動に物心両面
であたたかいご支援、ご協力をたま
わりますようお願い申し上げます。現在活動中のチリ・フェイズを除き、1984年次参加青年たちは元気に帰
国しています。彼らの活動ぶりをカラー写真でご紹介しましょう。

OR大西洋&中南米をゆく



- ①南大西洋を渡った帆船ゼブ号
- ②バハマについた旗艦SWR号
- ③バハマでの洞窟探険・調査
- ④ゴムボートで川下り(ペルー)
- ⑤密林のつり橋(コスタリカ)
- ⑥仲間たちと記念写真(バナマ)
- ⑦狩猟で食料確保(ホンジュラス)
- ⑧バナナの収穫(ボリビア)

決意も新たにチャレンジの旅

第1陣は3月南太平洋諸島へ出発

オセアニアを中心とした1985年次日本代表派遣青年30名の活動は、今年3月中旬、まず第1陣として3名が出発するトンガ・フィジー・ソロモンフェイズを皮切りに、パプアニューギニア、オーストラリア、ニュージーランドの各フェイズへ合計30名の参加が決定しています。活動内容は、1984年次の中南米フェイズの延長線上にあるものの、言語、文化、風俗などラテンアメリカとは異なった地域ですので、彼らの新たなチャレンジが楽しみであり、各方面から期待されています。そこで、1985年次の活動概要について、OR英国本部からの情報をもとにご紹介しましょう。

●第1陣(1986年3月→5月)

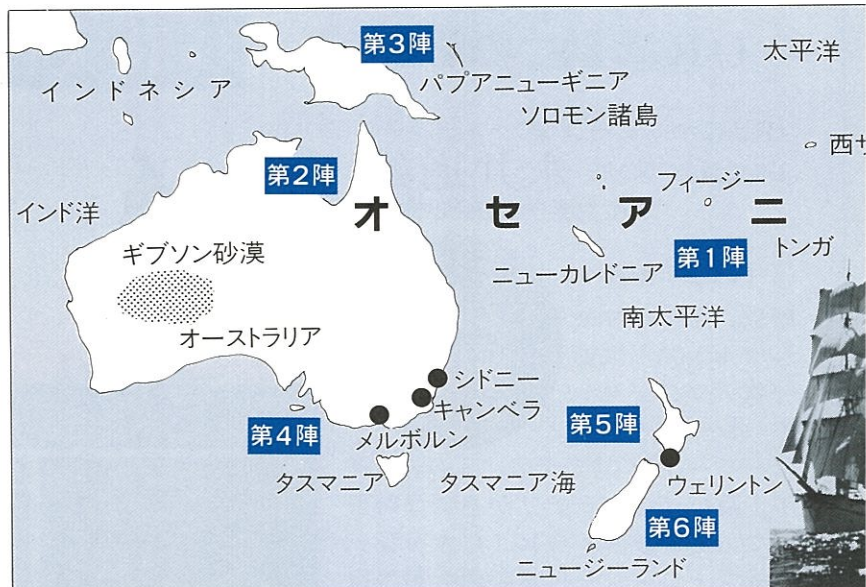
- 活動地域/ソロモン諸島
- 日本代表参加青年/3名(渡辺道雄君、来住南輝君、土居雅紹君)
- 主な活動/熱帯雨林調査、ニュージーダー火山火口付近の植物・動物の生態調査、タロイモ段々畑の調査などが科学的プロジェクトとして予定されている。コミュニティー・ボランティア活動では国際赤十字社とともに医療救援センターの建設および学校や修道院の増改築作業に従事する。冒険的なプロジェクトとしては奥地での山登りやカヌーによる島々の探検、潜水などに参加する。

なお、このフェイズには総勢30名のベンチャラーがイギリスはじめ、各国から集まる。



●第2陣(1986年5月→7月)

- 活動地域/オーストラリア北部
- 日本代表参加青年/6名(鈴木治弘君、安田清和君、藤本圭太君、北村篤君、高野孝子さん、谷廉子さん)
- 主な活動/オーストラリア北部の熱帯雨林調査やこの地方の考古学・歴史学的探査活動。また、16世紀の



ポルトガル難破船の潜水調査、有袋類(カンガルーなど)の生物学的調査、各種のボランティア活動などが予定されている。日本からの6名を含め、総勢250名のベンチャラーがオーストラリアはじめ各国から参加する。

●第3陣(1986年5月→8月)

- 活動地域/パプアニューギニア
- 日本代表参加青年/3名(長谷川秀司君、山田穂積君、中山勝博君)
- 主な活動/パプアニューギニアを舞台とするフェイズで科学調査ではワニの生息状況調査、熱帯雨林調査などを実施する。また、コミュニティー・ボランティア活動では水資源開発(井戸掘り)、道路や建物の修復、児童福祉施設の整備などに取り組む予定。さらに冒険的なプロジェクトでは滅亡した部族の遺跡探検、奥地のオオトカゲ調査・研究などが計画されている。このフェイズには日本からの3名を含めて50名のベンチャラーが参加する。

●第4陣(1986年7月→9月)

- 活動地域/オーストラリア南
- 日本代表参加青年/6名(佐子さん、宮田義明君、加宅田和森本作也君、青柳なお子さん、千寿さん)
- 主な活動/オーストラリア南野生動物調査プロジェクトやクワン砂漠の生物学的調査。冒険的プロジェクトではビクトリア州の生物学的調査、ラクダによるギブ

ソ砂漠横断旅行、タスマニアにいたる原住民アボリジニーの2、前の洞窟調査などが予定されて

●第5陣(1986年10月→12月)

- 活動地域/ニュージーランド
- 日本代表参加青年/6名(代子さん、田口陽子さん、戸田さん、月村卓也君、松井洋一、北秀人君) 〆



'85年次オペレーション・ローリー活動

オセアニア・フェイズの紹介

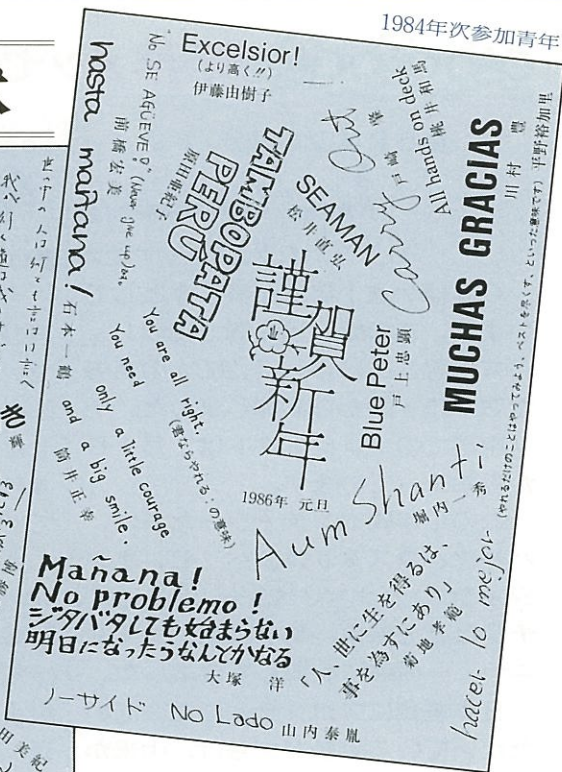
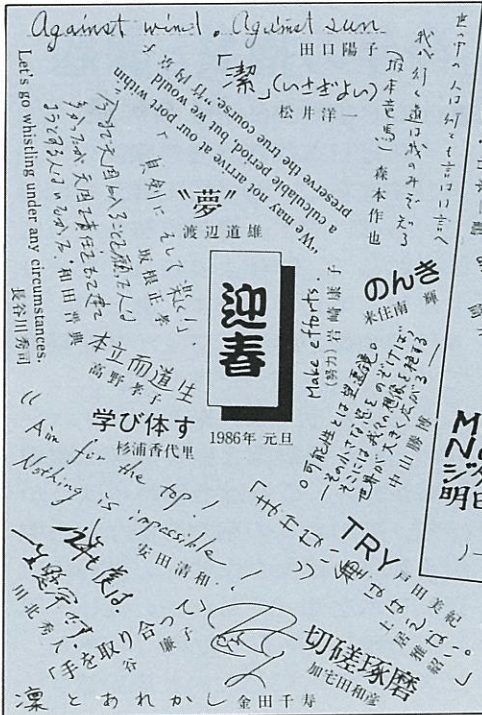
■主な活動／ニュージーランドのフィヨルド地帯におけるさまざまなプロジェクト。たとえば岸壁に生息する動物・昆虫類の調査、ガンの薬として有益な海藻調査、氷河におおわれた台地の地学的調査、海沿いのほら穴のコウモリやペンギンの調査、マオリ族の遺跡探査など。またジェットボートによる探検、いかだでの川下りなどの冒険も予定されている。

●第6陣(86年12月→87年2月)

■活動地域／ニュージーランド
 ■日本代表参加青年／6名(和田晋典君、杉浦香代りさん、坂根正孝君、岩崎康子さん、郡由紀子さん、井田浩二君)

■主な活動／第5陣に準ずる。
 なお、第5陣、6陣で日本からはそれぞれ6名ずつのベンチャラーが派遣されるが、全体では各100名ずつ合計200名の若者たちが世界各国から参加する。

紙上年賀状



1984年次および1985年次参加青年たちに新年のメッセージとして、好きな言葉を一人ずつに書いてもらい寄せ書き風の年賀状にしました。

ペルーでの3ヵ月を通し、本当に様々な体験をしてきました。その中で、反省点をあげてみたいと思います。

まず第一にあげるとしたら、やはり言葉の問題でしょう。とくに私の場合は、現地の人々との交流が多かったのですが、英語はもちろんですが、スペイン語の勉強不足を強く感じました。ペルーでは毎日のように素敵な出会いがありました。街の人々とバレーボールをしたり、一緒に仕事をしたり……。でもやはり言葉が違います。言葉は心さえあれば克服できるといわれていて、実際に私も片ことのスเปน語だけで、心と心



OR参加青年
 リレー・レポート
 《第8回》



いろいろな体験に
 好奇心でチャレンジ

1984年次第8陣 細田香納美

のふれあいができました。しかし、言葉がもっと通じ合えば、さらに深いつき合いができたのではなかったかと反省しています。

また、ORの参加目的をしっかりと認識することは大変重要なことだと思います。私の場合は人々との交流やいろいろなことにチャレンジして自分を試すというのが目的でしたので、それはほぼ達成することができました。日本では絶対にできないようなことをたくさん体験してきましたから…。

しかし、数多く体験するのもいいけれど、ひとつのことを深く追求するというのもいいことではなかったかと思いました。医療救助といっ

ても、医学のことにはまったく知識がないので、ただ単にアシスタントにすぎなかったことは確かです。ランブ・ウェイの作業も、ベンチャラーの中にそういう勉強をしている人が率先して計画し、私たち何も知らな



いは、その指示に従っているだけだったような気がします。とくにこれは誰にも負けないというものが、ORのプロジェクトの中に、私の場合なかったわけですが、あったらもっとORを楽しめただろうと思います。

それでも私自身はいろいろな分野に足を踏み入れることができたのでいまは満足しています。これを機会にさらに様々なことにチャレンジし、いつも好奇心旺盛な私でありたいと思っています。

新春メッセージ

●OR英国本部ディレクター

Roqui Chapman

J.R.チャップマン

ORはいま1年目が終わろうとしています。この間、10ヵ国で13のフェイズが繰り返され、1,200人の若者たちが15ヵ国から参加しました。チリ南部でのプロジェクトは1月1日から始まっています。

この1年間ベンチャーたちは、バハマ、コスタリカ、ベリゼ、ホンジュラス、パナマ、ペルー、ボリビア、チリなどで探検、科学調査、コミュニティー活動に参加してきました。

日本電装にスポンサーになっていた帆船ゼブ号は、中米からガラパゴス、ハワイ経由で南太平洋を航海し、年末にはシドニーで停泊、オーストラリア南部へ出航するため、燃料・食料を補給中です。

現在までに、25人の日本のベンチャーに参加していただきましたがスネル氏が率いる作戦本部の誰もが日本代表の青年たちのすばらしさを実感しています。彼らがロンドン本部を訪れたときの熱心な態度も好感がもてました。彼らのOR体験が彼らにとって有益なものになることを熱望しています。

本年も引き続き、ORJCの運営がスムーズに行くことを祈っております。そして、次の日本からの参加

者を心からお待ちしています。

今年の抱負と課題

●ORJC事務局長 牧野 勇 治

今年には日本代表選考の最後の年。再びすばらしい30名に出会える期待でいっぱいです。選考方法もそれにふさわしく、昨年よりさらに充実させたいと考えています。あとは、日本代表全員が無事にフェイズを終えてくれる日を待つだけです。

さらにもう一つ、来年のジャパン・フェイズの計画という大きな課題があります。これは今年いっぱいかけて、沢山の人の協力を得ながら取組まなければなりません。世界の代表に日本を知ってもらい、楽しい思い出を残してもらうためにも充実したプログラムにしたいと思います。

これらの活動を通じて、もっとも多くの日本人々にORの活動の意義を知ってもらわなければなりません。今年、そのための条件が十分に揃う年です。

今年の終りには、ORとは私たちににとって何か、の全体像が見えてくるでしょう。悔いのない年にしたいと思います。



ORJC事務局NEWS

1986年ORJC活動計画（予定）がこのほどORJC事務局で立案されました。日程的にはほぼ昨年と同様ですが、ORシンポジウムの日程など、多少の変更があります。

●主なOR活動日程

- 3月20日（木）86年次派遣青年募集開始（30名）
- 5月31日（土）応募締切り
- 6月20日（金）第1次合格者発表
- 7月6日（日）東京地区第2次審査
大阪地区第2次審査
- 7月13日（日）体力・英語筆記テストを実施



- 7月25日（金）第2次合格者発表
- 8月23日（土）東京、大阪で面接・英会話・協調性など
- 31日（日）の適性審査
- 9月下旬 最終合格者（30名）を記者発表
- 10月17日（金）86年次派遣青年結団式および丹沢2泊3日（日）日の合宿訓練

デンソーワールドワイド・オペレーションNo.5

カナダ

海から海へ。人から人へ。



カナダの紋章には、「海から海へ」という言葉が刻まれています。カナダの国土が大西洋から太平洋まで約5,000キロにわたっていることの実現なのです。人間の住める地域が国土の数パーセントという土地は、クルマにとっても厳しい条件ばかり。小さな部品ひとつにも完璧さが要求されます。デンソー製品を通して、より快適なカーライフを…。デンソーマンはここでも活躍しています。

NIPPONDENSO CANADA LTD.
所在地: 4500 Sheppard Avenue East, Unit 29,
Agincourt, Ontario, Canada, M1S 3R6.
売上高: 4,860,000ドル (6億9,600万円)

<1985年4月現在>

